

## 有明海貧酸素水塊一斉観測の結果（暫定報告）

（独）水産総合研究センター西海区水産研究所  
有明海・八代海漁場環境研究センター

8月5日に、有明海全域において、国、県、大学、民間企業、および西海区水産研究所から構成された計17機関（注参照）が協力して、「有明海における貧酸素水塊の一斉観測」を実施しました。

底層の溶存酸素の分布をみると、有明海奥部の大浦沖に溶存酸素飽和度40%以下の貧酸素水塊が分布しています（図1）。しかし、湾奥西部及び湾奥東部では溶存酸素濃度は高くなっています。

有明海奥部では、7月下旬には、沖神瀬西の底層では溶存酸素飽和度が30%を下回る貧酸素水塊が分布していました。しかし、8月2日に東シナ海を北上した台風11号及びその後の南西寄りの強風の影響を受けました。このため、湾奥浅海域では強風による混合により底層の溶存酸素濃度が上昇したと考えられます（図2）。

しかし、表層では、8月3～5日の降雨に伴う低塩分水が分布し、強い密度成層が形成されていますので、今後、8月中旬の小潮期（8月16～19日）には浅海域でも底層の溶存酸素が低下し貧酸素水塊が発達する可能性があり、注意が必要です。

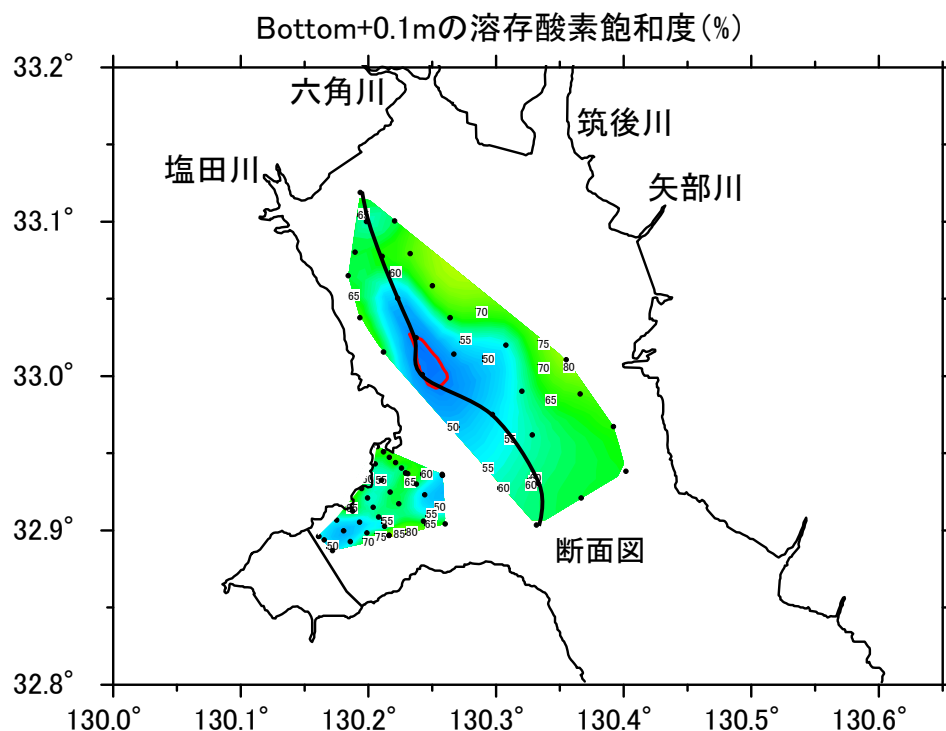


図1. 有明海奥部底層の溶存酸素の平面分布（2014年8月5日、満潮時）  
（関係17機関の一斉観測調査による暫定値。赤線部が貧酸素状態）

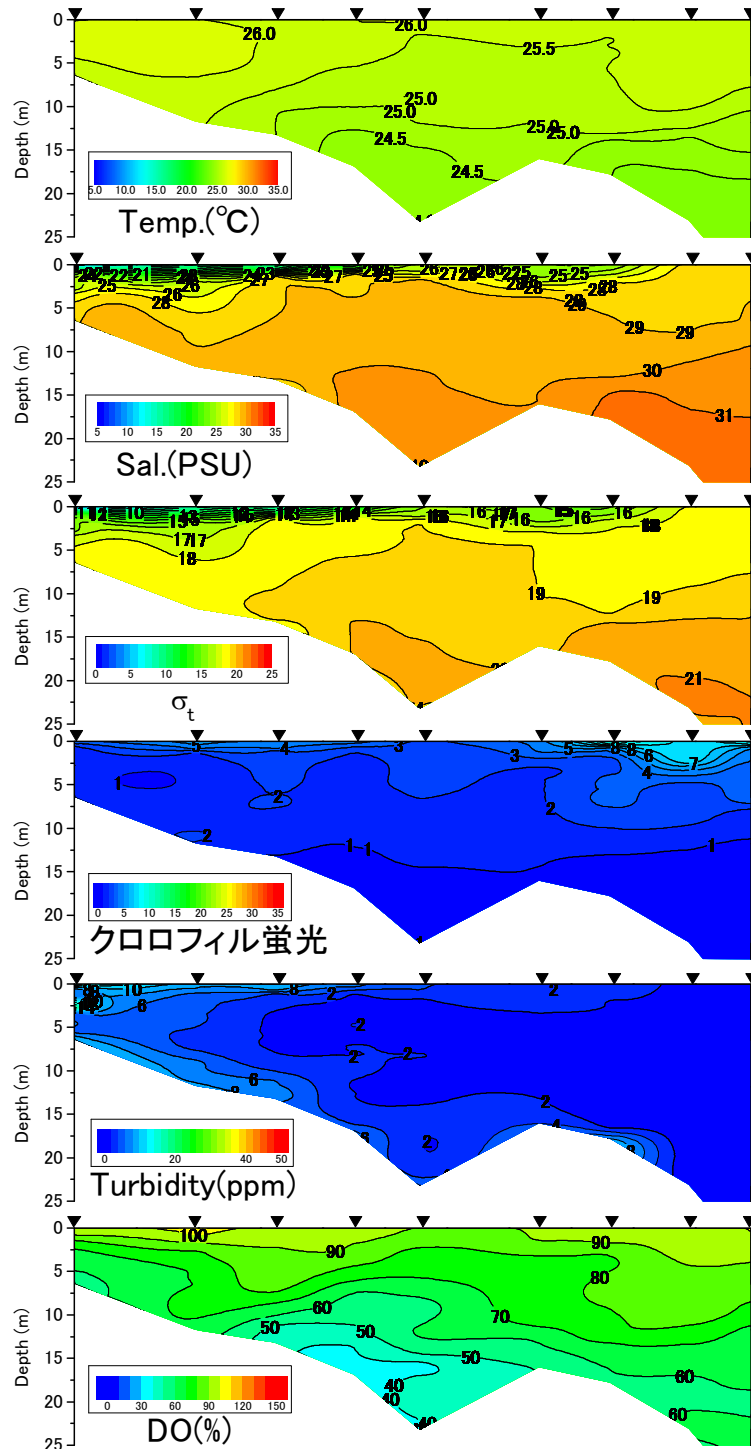


図2. 有明海奥部の水質の鉛直断面分布 (2014年8月5日、満潮時)  
 (関係17機関の一斉観測調査による暫定値)

※水産庁、農林水産省九州農政局、国土交通省九州地方整備局熊本港湾・空港整備事務所、環境省、水産総合研究センター西海区水産研究所、福岡県水産海洋技術センター有明海研究所、佐賀県有明水産振興センター、長崎県総合水産試験場、長崎県県南水産業普及センター、熊本県水産研究センター、熊本県環境保全課、熊本県保健環境科学研究所、九州大学総合理工学研究院、佐賀大学低平地沿岸海域研究センター、熊本大学、日本ミクニヤ(株)、(株)西村商会